

(平成29年 11月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	11月は、冬型の気圧配置が多く天候が荒れた影響やさけ、たらなどの魚種で漁獲量が減少したため、水産物の総入荷量は、前年同月と比べ、鮮魚、冷凍魚、加工水産物の全体で入荷量が下回り、全体で4%下回った。 総取扱金額は、前年同月と比べ、加工水産物は前年並みであったが、鮮魚、冷凍魚が下回ったことから、全体として3%下回った。 12月は、水産物の需要が一番多い時期であり、旬を迎えた美味しい魚が店頭によく並ぶ。天然物は天候により入荷や価格が変動するが、養殖物は安定した入荷と価格となる見込みである。冷凍魚や加工水産物は、原料の値上がりなどの影響により価格は全般的に前年から値上げしている。
(区分別の動向) 鮮 魚	11月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ3%下回り、単価は前年並みであった。 品目別には、まだい（養成）、はまち（天然）の入荷量は上回り、単価は下回った。ぶり、たらの入荷量は下回り、単価は上回った。 12月は、多くの魚が脂の乗る時期であり、まぐろ、ぶり、さわらなどはお造りや焼き物に、かき、あんこう、たらなどは鍋料理で御賞味いただきたい。また、養殖ふぐは、安定した入荷が続く、前年に比べ値下がりしているので、この機会に御賞味いただきたい。
冷 凍 魚	11月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ14%下回り、単価は6%上回った。 品目別には、冷さけ、冷えびは前年に比べ単価が上回ったことから、国内需要が低下し、入荷量は下回った。 12月は、冷かに、冷えびの需要が多くなるが、海外における需要も多いため、前年を上回る価格が続くと見込まれる。

加 工 水 産 物	１１月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ４％下回り、単価は５％上回った。 品目別には、塩かずのこ、開干あじの入荷量は上回り、単価は下回った。塩銀さけ、ゆでせこがには入荷量が下回り、単価は上回った。また、秋漁が不漁となったちりめんの入荷量が大きく下回り、単価は上回った。 １１月６日に解禁となったずわいがには、オスのゆで丸かには前年並みの入荷となったが、メスのゆでせこがには前年を下回った。せこがにの漁期は１２月３１日までであり、水揚げが回復するのを期待したい。 １２月は、塩かずのこ、かまぼこなどの年末商材の入荷が増えてくる。塩かずのこは順調に入荷し、価格は前年を下回ることが見込まれる。塩紅さけやいくら、国内外の需要増加や水揚げ減少などにより原料が値上がりしたことから、価格は前年を上回る見通しである。
------------------	--

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	長崎, 和歌山で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ 21 % 上回り, 単価は 9 % 下回った。
ま い わ し	愛知, 三重で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ 31 % 上回り, 単価は 14 % 下回った。
さ ば	千葉, 韓国で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ 23 % 上回り, 単価は 10 % 下回った。
す る め い か	北海道で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ 61 % 上回り, 単価は 6 % 下回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ 8 % 下回り, 単価は 4 % 上回った。
ぶ り	鹿児島, 長崎で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ 9 % 下回り, 単価は 11 % 上回った。
さ わ ら	鳥取, 島根で水揚げされたものが主体となる入荷で, 入荷量は前年同月と比べ 29 % 上回り, 単価は 17 % 下回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ 7 % 下回ったが, 中型物のお荷が増えたため, 単価は前年並みであった。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ 39 % 下回ったが, 前年を上回る価格で推移していた影響から需要が減少したため, 単価は前年並みとなった。

(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は前年同月と比べ４％上回ったが、国内外で原料となるさけの需要が多いため、単価は１２％上回った。
塩 か ず の こ	入荷量は前年同月と比べ２５％上回り、単価は６％下回った。